

東京音楽大学附属民族音楽研究所刊行物リポジトリ

Title	インドネシア国立芸術大学スラカルタ校に於ける、ジャワガムラン初・中級課程のボナン・バルン奏の楽曲解釈および奏法教授に関する報告と考察
Title in another language	A Report and Consideration on Musical Interpretation and Teaching Method of <i>Bonang Barung</i> for the Beginners and Intermediate Courses of Javanese Gamelan at the Indonesian Institute of the Arts, Surakarta
Author(s)	樋口文子 (Higuchi Fumiko)
Citation	伝統と創造=Dento to Sozo, Vol. 8, p. 15-23
Date of issue	2019-03-25
ISSN & ISSN-L	Print edition: ISSN 2189-2350, Online edition: ISSN 2189-2482, ISSN-L 2189-2350
URL	http://www.minken1975.com/publication/IE_B08201802.pdf

インドネシア国立芸術大学スラカルタ校に於ける、
ジャワガムラン初・中級課程のボナン・バルン奏の
楽曲解釈および奏法教授に関する報告と考察

A Report and Consideration on Musical Interpretation and Teaching Method of
Bonang Barung for the Beginners and Intermediate Courses of Javanese Gamelan
at the Indonesian Institute of the Arts, Surakarta

樋口文子 HIGUCHI Fumiko

2018年8月、筆者はインドネシア国立芸術大学スラカルタ校(通称 ISI Solo)を訪ね、ある舞踊伴奏組曲の楽曲解釈と、ボナン・バルンの奏法について伺った。その組曲は3年前に本学の短期留学プログラムとして催行されたジャワ研修での課題演目だったものだ。当時の受講生は初級過程履修者で、教官は工夫して比較的易しい奏法を教授して下さった。それから3年が経ち、本年度は中級過程で学ぶ彼らが再びその課題を学習することになったため、楽曲解釈や奏法についてあらためて伺ったのである。その内容は、前回教えていただいた奏法の意味を含め、ジャワガムランの本質に触れる重要な要素が詰まった興味深いもので、大変感銘を受けた。今回は具体的に奏法例を示しながら、考察を交えて内容を報告する。

キーワード: ジャワ Java、ガムラン Gamelan、ボナン Bonang

1. はじめに

2018年8月、筆者はインドネシア国立芸術大学スラカルタ校で主に楽曲解釈に関わるクラスを担当されているスラジ・スマルト Bp. Suraji Sumarto 氏を訪ねた。舞踊演目「ボンダン Bondhan」伴奏組曲各曲の、楽曲解釈やボナン・バルン(楽器の固有名称。ボナンと略す。主に基本の旋律を装飾する。)の奏法について、3年前に学んだ初心者用の内容を中級者のために掘り下げるためである。スラジ氏は「一度奏法や解釈を学んだあとに、バリエーションやより高度な技法、さまざまな解釈を学ぶことこそ、ジャワガムラン習得の重要な鍵である」と言って訪問を喜んで下さった。

舞踊「ボンダン」伴奏組曲は、小曲が連なった12分程度の作品だが、形式の異なる3曲から成り、それぞれが多様に解釈でき、多くの技法が学べる格好の教材である。今回スラジ氏の教えによりそのことに気付き、ジャワガムランの深淵さにも触れて感銘を受けた。以下に楽譜と、行ごとにその内容を記していく。

2. 各曲におけるボナン・バルン奏と楽曲解釈および考察

以下に 2014 年と 2017 年に教授していただいた主な内容と進行等の説明、考察を記す。なお、基本的な奏法については、別稿 [樋口 2016: 15-28] を参照されたい。また、具体的な技法例を本文の最後に専用フォントによる数字譜で記載する。

2. 1. *Ayak-ayakan, sl. mnyr.*

- a) 前奏部分にあたる。2014 年、2017 年ともボナンは演奏しない。
- b) 2014 年：4ゴトロ *gatra* (小節のような単位。4つの数字が1ゴトロである。) ともグンビャン *gembyang* (オクターブ奏の一種)。速さの段階¹はイラマ・ランチャル *irama lancar*。
2017年:3ゴトロ目まで2014年と同じ。4ゴトロ目は速さの段階をイラマ I に切りかえ、ゴトロの最終音セレ *Selah* をより重要視した技法ミピル・ロンボ・ルンパタン *mipil lombo lumpatan* (技法例 1)。
- c) 2014 年：2ゴトロ目までイラマ I でミピル・ロンボ (骨格旋律バルンガン *Balungan* を単純に分割する技法)、3ゴトロ目からイラマ II でミピル・ロンボを 2 回繰り返す技法ミピル・ランカップ *rangkep*。
2017年：2ゴトロ目までイラマ I、ミピル・ロンボ・ルンパタン (技法例 1)、3ゴトロ目はイラマ II、2 のドウドウ *nduduk*・グンビャン (オクターブ奏の一種)。
考察：2014 年は、バルンガンが 1ゴトロ全てに音がある (バルンガン・ムラク *mlaku* と呼ばれる) 場合はよりバルンガンに忠実で初心者に演奏し易い、ルンパタンを使わないミピル奏で演奏させている。2017 年は長老で ISI Solo の特別教官でもあるヤディ氏 *Bp.Yadi* の解釈に従い、弦楽器ルバブ *Rebab* のラグ *lagu* すなわち楽曲解釈によるメロディーを邪魔しないよう配慮する奏法を紹介していただいた。この曲はワヤン *Wayang* 伴奏曲に分類され、王宮様式のワヤン伴奏ではボナンを使用しない。つまりボナン奏者は比較的新しいことに取り組むわけである。ヤディ氏は、そのためこの曲は特に解釈に気を使って演奏すべきであると話したという。
- d) 2014 年：以降イラマ II、1ゴトロ目はミピル・ランカップ、2ゴトロ目は 1 を経過して低い 6 に向かうミピル・ランカップ・ルンパタン (技法例 2)
2017 年：以降イラマ II、1ゴトロ目は 2 のドウドウ・グンビャン、2ゴトロ目は 2014 年と同じ。
- e) 2014 年：最初の 2ゴトロは低い 3 を経由して低い 6 に向かうミピル・ランカップ・ルンパタン (技法例 3)、3ゴトロ目は 3 のドウドウ・グンビャン、4ゴトロ目はミピル・ランカップ。
2017年：最初の 2ゴトロは低い 6 のセレのみを意識したミピル・ランカップ・ルンパタンを採用し、3ゴトロ目は 2014 年と同じ。4ゴトロ目はセレ 2 に向かうミピル・ランカップ・ルンパタン (技法例 4)
- f) この部分は使わない場合が多いが、2017 年に確認した。
1、2ゴトロ目は 2、3ゴトロ目は 3 のドウドウ・グンビャン、4ゴトロ目は 1 に向かうミピル・ランカップ・ルンパタン (技法例 5)。

- g) 2014年、2017年とも、1ゴトロ目前半は1のグンビャン、後半はミピル・ランカップ、2ゴトロ目は低い6へ向かうミピル・ランカップ・ルンパタン(技法例2あるいは6)。
- h) この部分はf)から曲の終了フレーズであるスウォ *suwuk*(楽譜上には *swk* と記載)の部分に移行するバルンガンで、セレ1から移行するのにスムーズな音運びのバルンガンが施されている。2017年に念のためうかがったところ、1ゴトロ目は1に向かうミピル・ランカップ・ルンパタン(技法例5)、2ゴトロ目は低い6へのミピル・ランカップ・ルンパタン(技法例2あるいは6)。

2.2. *Ldr.Ginonjing, sl. mnyr.*

- i) 前奏部分。ボナン・バルンが担当する。冒頭部分は多くの場合バルンガン譜とは違う弾き方をする(技法例7)。2014、2017年とも同じ。
- j)~k) この部分は繰り返さない。

2014年：ドウドゥ・グンビャンを半ゴトロごとに行う。

2017年：k)行2ゴトロ目までソロのミピル・ロンボ・ルンパタン(技法例8)。以降は2014年と同じ。

k)行3ゴトロ目つまり第3クノン *Kenong* 後から太鼓がチブロン *Ciblon* に移行して舞踊の具体的な振り(この場合は女性舞踊ガンビヨン *Gambyong* に準じたもの)を提示するのに伴い、k)行最後のゴトロに2に向かう装飾旋律スカラン *sekaran* を配する。

考察：これは舞踊に入る前の部分で、ISI Solo で使われている楽譜集²にこの部分のバルンガンがないことから、このあとの m)~n)のメロディーを元にこの演目のためにアレンジされたものと推測できる。舞踊家は前曲 *Ayak-ayakan* で入場し、座して準備を整え本編の舞踊が始まるのを待っている。この、舞踊が始まるまでの部分に、バルンガンをニバニ *nibani*(すべてのゴトロの1、3拍目に音がないタイプ)にアレンジしたバルンガンを添えたと考えられるのである。実はこの曲に繋げて演奏するグンディン *Gendhing* 形式の曲³があるのだが、その曲はバルンガンがニバニの曲で、ジョグジャカルタ様式の楽曲を真似てソロ王宮で作られたものだそう。2014年の研修時には、サルノ氏(Bp.Sarno)が指導を担当されたが、この部分は「ジョグジャカルタ様式の奏法を用いて、ドウドゥ・グンビャンで演奏すればよい」とだけおっしゃった。この奏法は比較的単純で初心者で演奏しやすい。しかしサルノ氏はこの奏法を、妥協でなく豊富な知識と粋な「解釈」によって導き出し、初心者向けに「選んだ」のであった。

ここでとても大事なことは、この奏法を上級者やプロ演奏家上記の理由で相応しいと判断して選ぶことも十分にあるということだ。単純な奏法イコール初心者用のメソッドというわけではないのである。課題曲も、初心者クラスで扱う曲が初心者用の易しい曲ではない。ほぼ全ての曲が練習曲でなくれっきとした王宮の古典曲なのである。これは西洋音楽と違う点であろう。教官のセンスでどのようなアレンジでどの奏法を選んで教えるか、が重要なのである。またジャワガムラン演奏者はどの奏法、技法が「相応しいか」を都度選んで演奏することが重要なのである。

一方スラジ氏は、技法が複雑なミピル・ルンパタン奏の導入にも良い教材であると言い、具体的な技法例を示してくださった。ソロ様式でボナン・バルンを演奏するためには習得しておくべき奏法である。この部分は分量として少なく、初心者への導入

に適していると言える。

- m)～n)** イラマ I の繰り返しから II そして III に移行する部分で、2 行がひとつのサイクルである。イラマ I では、チブロンを用いて 4 回繰り返されるが、2014 年、2017 年とも、ボナンは奇数ゴトロ目にインバル *imbal* (2 台の大小ボナンが 4 つの音を交互に奏して繰り返す技法)、偶数ゴトロ目にスカランを配した。なおインバルはマニユロに「3 と 6」を取り混ぜるが、2014 年には直後のゴトロのセレが 6 である場合すなわち **m)** 行 3 ゴトロ目と **n)** 行 3 ゴトロ目に「3 と 6」を、2017 年は、奇数ゴトロのセレが 6 である **n)** 行 3 ゴトロ目のみ「3 と 6」を採用。異なる指針により「3 と 6」を採用している。

また、この曲がより大きな形式の曲を縮小したような構造になっていることから、応用として 1 ゴトロの前半にインバル、後半に短いスカランを配すのもふさわしいとのことだ。

そして 5 周目の **m)** 行 2 ゴトロが終わったところで太鼓がチブロンからクンダン・ドゥア *Kendhang dua* (KdII と略す) と呼ばれる大小ふたつの太鼓による奏法に移行する。以降ミピル奏となるが、**m)** 行 3 ゴトロ目の速さはイラマ I で、2014 年はミピル・ロンボ、2017 年はミピル・ロンボ・ルンパタン (技法例 8)。**m)** 行 4 ゴトロ目からイラマ II となり 2014 年、2017 年とも **m)** 行 4 ゴトロ目は 1 を経由して低い 6 へ向かうミピル・ランカップ・ルンパタン (技法例 2)。**n)** は 2014 年には全て中音域でミピル・ランカップ。2017 年には 1 ゴトロ目は 1、2 ゴトロ目は低い 6 へ、4 ゴトロ目は 2 へ向かうミピル・ランカップ・ルンパタン (技法例 6・2・4)、3 ゴトロ目は前半に 3、後半に 6 のドゥドゥ・グンビヤン。5 周目の最後に曲の速さはイラマ II の倍に遅くなり、イラマ III となる。

考察：前半のイラマ I 部分は、それぞれに根拠のあるインバル音の選び方が全く違い興味深い。イラマ II 部分は、2014 年サルノ氏は 2.1 *Ayak-ayakan* で使った低い 6 に向かうミピル・ランカップ・ルンパタン以外は全てミピル・ランカップに統一し簡略化した。これはジャワ研修の期間が短くルンパタンの練習が十分に取れないことや、この部分は大きなテンポの変化もあるため、初心者を混乱させることを避け、まず太鼓の指示の通りにテンポを変化させられることを優先した。これは中級クラスの試験では減点されるパターンであり、実際にサルノ氏より慣れたらルンパタンで演奏させるよう指示があった。

- p)** ここから 4 行すなわち 16 ゴトロが 1 つのサイクルであり、速さの段階はイラマ III である。今回の演目ではこの部分を 2 回繰り返す。ラドラン *Ladrang* 形式でイラマ III のバルンガンが 16 ゴトロのサイクルになっている場合は、基本としてゴトロの前半にインバル、後半にセレ音に向かうスカランを配す。2014 年は **p)** 行の最初から次のようにインバル・スカランを配した：「3 と 6」スカラン 6、「1 と 3」スカラン 3、「3 と 6」スカラン 6、「1 と 3」スカラン 2。

また 2017 年はミピル・ロンボとドゥドゥ・グンビヤンを用いた (技法例 9)。この場合、次の奏法を先取りして 4 ゴトロ目の後半にスカラン 2 を配しても良い。

考察：**p)** 行はラドラン形式の第 1 クノンガン⁴ *kenongan* にあたり、テンポがイラマ III に変化した直後はボナン演奏上のルールがある。グンディン形式の場合もそうだが、太鼓奏者が以前にチブロン以外の太鼓を使い、その後チブロンに移行して「アンカタン *angkatan*・チブロン」という技法でテンポを変化させてイラマ III にした場合、ゴ

ング Gong のあとボナンはすぐにインバル・スカラン奏に移行せず、最初の区切り（この場合は第1クノン）までミピル・ロンボ（あるいはランカップ）・ルンパタンを通常の倍に遅くして演奏するというものだ。しかし舞踊の伴奏として演奏する場合は、ゴング直後からすぐに華やかなインバルとスカランの組み合わせに切り替えて良いという解釈があり、2014年サルノ氏はこれを採用した。

- q) 2014年、2017年とも、2、3ゴトロ目にインバル「1と3」、1、4ゴトロ目に「3と6」、各ゴトロの後半はセレ音に向かうスカランを配す。
- r) 2014年は1、2、3ゴトロ目に「1と3」、4ゴトロ目に「3と6」、各ゴトロの後半はセレ音に向かうスカランを配す。2017年は解釈が加わり、スラジ氏はルバブの解釈に従い1、2ゴトロ目に「アユ・クニン Ayu kuning」と呼ばれるチェンコ cengkok（解釈に基づくひとつのフレーズ）に準じた奏法を採用した（技法例10）。3ゴトロ目は2014年と同じ。4ゴトロ目はこの曲特有の解釈がありルバブのラグが高い1に向かうため、ボナンはこれに沿って高い1の音を示す特殊なスカランを1ゴトロにわたって配した（技法例11）。
- s) 2014年は2ゴトロ目前半のみ「3と6」、ほかは「1と3」、4ゴトロ目以外は各セレに向かうスカランを配し、4ゴトロ目はゴングにふさわしく2に向かう長いスカランを配す（技法例12）。2017年は更に細かい解釈が加わり、最初の2ゴトロを大きな1つのラグと捉えてスカランを配さず1ゴトロ目は全て「1と3」、2ゴトロ目は「3と6」とスカラン6。3ゴトロ目はセレが3であるが、ルバブやゲロン Gerong（男性の斉唱パート）のラグが6を経過しているため、セレに短い6のスカランを配した（技法例13）。ボナンのこの技法はチェンコ「プトゥ・グル Putut gelut」を演奏する際と同じである。4ゴトロ目は2014年と同じ。なお2周目の4ゴトロ目は曲を終息させる太鼓の技法に沿って、2014年、2017年ともミピル・ロンボ・ルンパタンを通常の倍に遅く演奏する（技法例11）。

2.3. Ledhung-ledhung, sl. mnyr.

民間に伝わる子守唄をアレンジした曲である。最後の音を退場曲 *Ayak-ayakan* 開始音につなげるため本来のセレ低い6を2に変更し、バルンガンをも2132に変えてある。

- t) 前奏部分。通常は女性の独唱にチブロンが加わる。ボナンは演奏しない。
- u) ここからイラマIIで演奏する。2014年、2017年とも、1、2、3ゴトロの前半に「1と3」、4ゴトロ目のみ「3と6」で後半にセレへ向かうスカランを配す。
- v) 2014年：「1と3」とスカラン3、1を経過して低い6に向かうミピル・ランカップ・ルンパタン（技法例2）。

2017年：2014年と同じだが、太鼓が *Ayak-ayakan* の前奏を演奏するゴング Gong 直前に、ゴング音への誘導として2のグンビャンを演奏する（技法例13）。

曲が繋がり、前曲のゴング音が次の曲の開始音と異なる場合、あくまでもまず本来のセレに向かい、必要に応じて変化させる。余談だがマンクヌガラン王宮ではこのような場合、ゴングまでを前曲の通りに演奏すると決められている。グループによりさまざまな手法がある。

- 4) 3123 31.. 313. 221(0) 5) 2161 212. 212. 212(0)
- 6) 313. 221. 215. 661(0) 7) 6.123 2166 3356 535(2)
- 8) 525. 535. 535. 221. 525. 535. 215. 661. 212. 212. 215. 661.
- 9) 535. 666. 535. 335. 535. 666. 535. 221.
- 10) 1 3 216 3 5 6 1 3 1 3 . 216 1 2 1.3.1.3. 21 6 5 3 61 2 6 . 3 5 6 1
- 11) 1.1.1. . × 4 12) 1.3.1.3. 3 2 1 6 6 3 6 1 2 6161(2)
- 13) 1.3.1.3. × 3 3561216 14) 21.5 51.. 515. 2.2(0)

註 :

- 1 ジャワガムランの速さは、基本の骨格旋律バルンガン Balungan 1拍に対し、バルンガンを細かく刻む役割を持つ楽器プキン Peking が何回打つかによって段階が決まる。イラマ・ランチャルはバルンガンとプキンが 1:1、イラマ I は 1:2、イラマ II は 1:4、イラマ III は 1:8 である。イラマ・ランチャルから順にバルンガンのテンポは遅くなる。
- 2 『DATA-DATA BALUNGAN GENDING-GENDING GAYA SURAKARTA』。スラカルタ王宮博物館および、王宮関係者が設立したラジャ Radya 博物館の資料と、王宮付演奏家の長老ムロヨウィドド Bp. R. L. Mloyowidodo 氏の記憶を元に、当時知りうる限りのガムラン伝統曲を編纂したバルンガン集。ASKI (現在の ISI Solo) より 1976 年に発行された。
- 3 *Gd. Giwang Gonjing*, kt. 2 kr. sl.mnyr.
- 4 ゴング拍直後から最初のクノン拍までのこと。

参考文献 :

樋口, 文子. 木村, 佳代.

2015 インドネシア国立芸術大学スラカルタ校におけるガムラン研修(合奏授業および個人レッスン)同行報告. 東京音楽大学附属民族音楽研究所研究紀要. Vol.4, p.1-14.

樋口, 文子.

2016 インドネシア中部ジャワ、スラカルタ様式のガムラン音楽に於ける、ボナンの基本奏法について. 東京音楽大学附属民族音楽研究所研究紀要. Vol.5, p.15-28.

The author visited the Indonesian Institute of the Arts, Surakarta in August 2018, and asked about musical interpretations and playing methods for *Bonang Barung* in a suite of accompaniments for dance. It was an assignment for our short study tour in Indonesia held three years ago. Its participants were students who completed the beginner level, and the instructor taught them a relatively easier playing method. After three years since then, they are now in the intermediate level this year. To teach them the same piece again, I wanted to refresh my knowledge of its interpretation and playing methods. My lessons in 2018 unexpectedly gave me deeper insights into Javanese gamelan music. The author will report and discuss the interesting points in the lessons with some examples of playing methods.

(樋口文子：本学講師 ガムラン)

